

六花の森でできること

自然のアートに浸る

六花の森は、主に自然のアートを含むアート体験に夢中になれる場所です。アート作品は庭園のあちこちに点在しており、緑あふれる小高い丘の上でシンボルとなっているロダンの彫刻『考える人』からインスピレーションを受けた坂東優氏の作品などが見られます。彫刻家の青木三四郎氏が制作した野生動物の彫刻が森の中や川沿いに隠されています。

テーマを持ったギャラリー

すべては、かつての六花亭社長であり、六花の森を作った小田豊氏のビジョンに基づいています。小田氏は訪問者がギャラリーの中でじっくりアートを考えられるように、元はクロアチアの荘厳な古民家をアートギャラリーにしました。石と幅の広い木の梁で作られた古民家は、輸入されてこの地に復元されました。

各ギャラリーには異なるテーマがあります。その 1 つは坂本直行氏による山野草のアートです。六花亭のクッキーやケーキの包装紙に描かれた坂本氏の象徴的なイラストは、日本中の人々に親しまれ、六花亭ブランドを象徴しています。六花亭のクッキーのボックスは北海道旅行のお土産の定番であり、そのパッケージは国中の人々になじみのあるものになっています。

別のギャラリーには、北海道の山々を描いたイラストなど、坂本氏が制作した自然の風景が展示されています。さらに注目すべきは、60周年を迎えた雑誌『サイロ』です。この遺産とも言うべき雑誌は、帯広のアートを支援するための専門誌で小田氏がスポンサーをしています。

自然の中のアート

芸術表現はいたる所にあり、展示されているアート作品にとどまりません。庭園のあちこちに野外アート作品が見られます。庭園内で最も有名なシンボルは、ロダンの彫刻からインスピレーションを受けた坂東優氏の彫刻です。この像を見るために、訪れた人々は丘に上り、そこから順番に周囲の田園地域や六花の森をパノラマビューで楽しめます。

建物は落ち着いた雰囲気です。ほんの少しだけ小さな窓が付いている建物もありますが、アート作品と共に庭園の一部が見えるほど巨大な窓が付いている建物もあります。これらの建物は、かつては家だったかもしれませんが、今は六花の森のダイナミックなデザインを演出する建物の一部となっています。

散策する

来場者は庭園とギャラリーを自由に散策することができます。ここでは、入口と工場以外でスタッフに遭遇することはめったにありません。干渉しない姿勢により、この場所が来場者のものであるという感覚が高まります。

庭園のカフェとショップは、かつて六花亭の社員食堂だった非常にモダンな製造棟の一部にあり

ます。カフェのガラスの壁は、テラスのように半分野外にいるような感じの空間です。カフェのメニューは、ボリュームのある食事、スイーツ、コーヒーとお茶がメインです。

六花の森の訪問者は工場で焼き上げられた甘いお菓子の香りを嗅ぐでしょう。その匂いを嗅ぐと、六花亭のショップでクッキーなどのお菓子を買いたくなります。

六花の森に関する記事を読むには、[このリンク](#)[About ページのリンク]をクリックしてください。